



## 「夏のびよんびよんがえる」

今までびよんは虫がこわかったけど、だんだん虫がさわられるようになってきました。

夏休みのはじめ、おとうさんがかえるをつかまえてくれました。にわをとんでいたのでそのままかごに入れました。ウインナーをちぎっておはしであげました。さいしよはたべなかつたけど、だんだんついてえさをたべるようになりました。

かっているうちにかえるがかわいくなつてさわられるようになってきました。ぼくは田んぼに行って自分の手でかえるをつかまえました。そして、かえるに友だちをつくつてあげました。ぼくのかえるは二ひきになりました。

にわにバッタがとんでいたので手でつかまえて、かえるのかごに入れてみました。かえるはすぐにしたをのびしてバッタをたべました。だからぼくは毎日バッタをつかまえて、かえるにあげました。

8月のおわりになるとバッタがとれなくなつてきました。雨がふつたり、すずしくなつて、もうバッタがみつからなくなりました。

ある日、かえるがもう二ひきのかえるをたべました。ぼくは

## 「つながっているいのち」

「いのちを大切に。」学校の先生がしゅうぎょうしきで話していました。いのちってなんだろう。わたしは、いのちがあるから生きている。見えないけれど、あさおきたり、よるにねむくなったり、ふつに毎日生きているのは、いのちがあるからだとおもいます。

この前、テレビのばん組で、「おへそは、もともとなんのためにあつた？」というもんだいがありました。わからないとおとながたくさんいたけど、わたしは前にきいたことがあつて、おへそは赤ちゃんとお母さんをつないでいて、そこからえいようをもらつて、大きくなることをしていました。

テレビを見ていたら、お母さんが、「へその緒って見たことある？」ときいてきました。わたしは、「ストローみたいなかんじ？」ときいたら、じゃあ見てみようかと言って、小さな木のはこをもつてきました。

わたしは、ドキドキしながら、あけてみました。紙と白いこながついた黒くてほそ長いものが入っていました。「これがへその緒なの、ちよつと気もちわるい。」と、とてもおどろきました。

わたしとお母さんは、このへその緒でおなかの中でつながっていたんだとおもうと、なんだかあたたかい気もちになりました。そして、いのちって、今は見えないけれど、このつながりのことかもしれないとおもいました。

## 私立智辯学園和歌山小学校 二年 野中 一杜

びつくりしました。かえるがバッタをはじめてたべた時もびつくりしたのに、かえるがかえるをたべるなんてしんじられない。たべたかえるはとても大きくなつていました。

かえるは、おなががすけば、自分とほとんど大きさがかわらないあい手でもたべてしまうそうです。そして、うごいているものしかたべないので、生きたままたべられたみたいです。

ぼくは、かわいそうだなと思いましたが、おかあさんは、「かえるもひつしで生きているんだね。」と言いました。

### 講評

夏休みの初めに父親が一匹の蛙を捕まえてきた。餌を与えて育てるうちに愛着が湧き、これまで虫が苦手だったが毎日バッタを採って餌に与えるようになる。そして、自分で蛙を採って友達を作つてあげる。夏が終わり、バッタが採れなくなったある日、一匹の蛙がもう一匹の蛙を食べてしまった。その驚きと憐みの感情がリアルに表現されている。最後に、母親の「蛙も必死で生きているんだね」と、余韻を残して文章を閉じる。心情の変化がよく表されている。

## 私立賢明学院小学校 二年 山根 葵緒

みんなだれかが、だれかとつながっている。お父さんもお母さんも、だれでもつながっている人がいる。けつしてひとりではなく、見えないけれど、生まれる時はかならずつながっていることをしりました。

今は、「いのちを大切に。」という言葉だが、わたしにはとてもあたたかくかんじます。いのちは、見えないけれど、みんなかならずだれかとつながっているから、わたしは大切に、生きていきたいとおもいます。

### 講評

テレビ番組をきっかけに、母親から初めて自分の「へその緒」を見せてもらう。「へその緒」が入った箱を開ける瞬間のどきどきした感情、初めて見た驚きが素直に表現されている。さらに、黒くて細長い「へその緒」を見て、母親とつながっていたんだと、あたたかい気持ちを感じる。この経験をきっかけに、人はみんな誰かとつながっていることを知り、「いのち」を大切に生きていきたいと、段階を追って述べられている。子どもらしい発想がおもしろい。